

四国農学連報

第 31 号

発 行 者 校 校 校
四 国 地 区 農 業 大 学 校
学 生 連 盟
編 集 大 学 校
愛 媛 県 立 農 業 大 学 校
学 生 自 治 会

二年間を振り返って

四国地区農業大学校学生連盟会長
(愛媛県立農業大学校学生自治会長)

渡 部 将 実



今年度会長を務めさせていただきました渡部です。皆様を代表し、スポーツ大会や意見発

表会で壇上にてあいさつを務めさせていただきました。大したことでもできず、お恥ずかしい姿を晒したかと思えます。申し訳ございませんでした。しかしそんな私がこうして一年間会長を務められたのは皆様のおかげです。ありがとうございます。その会長として、こうしてあいさつの場を設けていただいたので、最後の職務として責任を全うさせて頂けたらと思います。

さて、私としては非常に充実した二年間となりました。この愛媛農大に入学し、二年が経ち自分が成長したことを、ひしひしと感じ

る次第です。私は農業に関わる事無く生きてきて、この農大という場所に来て初めて農業に触れました。二年間で農業を知った、というにはあまりに農業は膨大で、まさしく人の歴史です。農業を知るには膨大な時間がかかるというこ

ろ、この二年で大きく成長できたと言える、そう思っています。折角なので、私の二年間について少し書かせていただきます。前述の通り、私は農業と関わらず、ここ愛媛農大に入学しました。農家になるでもなく、農家に憧れがあつたわけでもありません。言

つてしまえば何となく入学しました。そんな私を出迎えたのはあまりに実践的な農業でした。初めての

実習で行ったのは玉葱の出荷調整という単語自体に馴染みが無かつたのです。何をどうすればいいのか、まるで分らなかつたのです。入学前の私の想像では「座学を受けて、その内容を畑で実践するのが実習」でしたから、これには面食らいました。ついていけない私をよそにどんどん進む実習。軽率な

一步に酷く狼狽しました。玉葱の収穫も程なくして行い、収穫の基準もわからぬままに見様見真似でやってみても半人前にすら届かない速度。焦りが心を焦り、失敗も多かつたように思います。徐々に慣れてきてなお、一人前に程遠いと思う日々でした。

しかし私は二年間でこう思うようになりました。農業とはそういうものの、と。それもそのはず。農業に今までと同じは通用しないからです。今までは違う事が起きるからです。もちろん全て違うというわけではないのですが、全て同じというわけでもないのです。農業に求められるのは臨機応変と、この二年間で痛い程身に沁みました。それを培うのは知識を基にした経験で、無我夢中に実習に取り組むのではなく、授業を受け知識を吸収し、実習に取り組むことで、臨機応変に動く力を少しでも培おうとこの二年間頑張ってきました。

さて、実習を一年真面目に頑張っていると、会長に任命されたわけですが、何故私が、という疑問が強く浮かびました。今まででそういった責任感のあるものと酷く無縁で、壇上に立つ事もありませんでした。皆を代表することなど私に務まるのだろうかと思問でした。そして初の仕事は引継ぎに始まりスポーツ大会でした。あ



機械研修のようす

い恥ずかしい姿を晒してしまつたのですが、スポーツ大会は無事終了し、皆様のおかげで大きな怪我もなく終了しました。意見発表会でも挨拶を務めさせていただきました。それぞれ皆様の活躍を見届けるくらいなもので仕事らしい仕事もしていないのですが、立派な活躍を一番いい場所で見せていただけたかなと思います。それが会長をやっている一番良かったと思うことでした。

そして皆様のおかげで会長を一年間やり遂げることができました。こうして最後の仕事を終えることができ、安心して次に託す事ができます。本当にありがとうございます。次に会長なる人へのエールで締めくくらせていただきます。

肩の荷は周りが軽くしてくれるから、やりたいようにやろう！一年間ありがとうございました。

若い力で農業・農村の未来を切り開け！



えひめ農業未来カレッジ（愛媛県立農業大学校）

校長 真木 健 司

四国地区農業大学校学生連盟によるスポーツ大会が、十月九日、愛媛県西条市で開催されました。日々の練習や農業実習で鍛えた体力とチームワークを発揮し、若い力で真剣に競い合う姿はとて眩しく、心動かされるものがありました。参加された方、運営にあたられた方、大変お疲れさまでした。

さて、いうまでもなく食は命の源で、その食である農畜産物は農業によって生産されることから農業は人が生きていくうえで必要不可欠な産業です。しかし、一方で農業に対し、儲からない、身体的にもきつい、厳しいといったマイナスの印象を持つ方もおられます。でも、実際には農業で安定した収入を確保しワークライフバランスを実現するなど「稼げる、カッコいい、感動を乐しめる」農業を実践している方が数多くいらっしゃいます。

愛媛県ではこのように夢と希望

をもって農業に取り組んでいる方々を「えひめ愛顔の農林水産人」として位置づけ、農業の魅力や成功体験などを広くアピールしていきます。

愛媛農大の卒業生にも「えひめ愛顔の農林水産人」として活躍している三十歳代の方も多く、昨年、授業で講師をお願いした米麦・野菜の生産者は「農大卒業後に就農したが、仕事の段取やお金の流れを把握することに苦労した。その後、農大の講座で自らの経営の強みと弱みを踏まえた経営戦略を立てたことで、将来展望が明確になった。」キウイフルーツの生産者は「日本一のキウイ農家を目指している。せん定は腕の力があるが、電動せん定バサミを導入し、女性や高齢者など力の弱い人にも安心して作業できるよう労働環境の改善を図っている。」と語り、二人とも「農業をやりたい」と思ってもらえる見本になりたい。」と

のコメントが印象的で、若者が地域を背負っている様子が目に浮かび、大変頼もしく感じました。

ただ、一方で今後の農業は深刻な課題に直面しています。担い手の減少は今に始まったことではありませんが、日本では人口減少が本格化し、二〇〇八年をピークに減少に転じ、愛媛県でも一九八五年の一五三万人から現在は一三〇万人を下回るまで減少し、このまま何も対策を打たなければ二〇六〇年には八〇万人を切るといわれています。少子高齢化や人口減少対策に力を入れています。が、今後は様々な業種で人手不足が深刻化していくことが予想されます。

そのため、こうした状況を打破する方策の一つとして進められているのが農業DXです。例えば、農業用ドローンやロボット田植え機を導入することで、省人化・効率化が実現し、人手不足の解消や軽労化につながります。ICT活用による農作業履歴や圃場管理が容易になれば事務の省力化を、栽培管理データを計測、分析、活用することで生産性と品質向上や作業の効率化を図ることができ、ビッグデータ化されたデータ活用によって匠の技なども伝承することなどが可能となります。さらにその先には、流通、消費などに関わるデータを相互に連携することで、農業のあり方が変革され、競争力

が高まっていくと考えられます。皆さんのように子供の頃からインターネットなどのデジタル技術や機器が身近にあり、慣れ親しんでいる若い世代は、こうした農業DXに対する適応力が高いと思います。ぜひとも、新しい技術も率先して学び、地域農業における最適な活用方法を模索し、実践していくことを大いに期待します。

若い感性や柔軟な発想力とチャレンジ精神で、これまでの農業の枠組みを超えるような効率的で持続的に儲かる農業を実現していただきたいと思います。

皆さんの若い力で農業・農村の未来を切り開き、地域農業の担い手としてご活躍されることを願っています。



愛媛農大野球部のメンバー

四学連スポーツ大会について

香川県立農業高等学校
学生自治会長

宮 川 諒 信



今年度のスポーツ大会は愛媛県で開催されました。開催にあたり多くの外部の

審判員や会場関係者の方々に協力いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。また、大会の運営に運営校として主体的に活動されました愛媛県立農業高等学校の学生自治会並びに教職員の皆様のご尽力の賜物と、感謝申し上げます。

今年度のスポーツ大会は西条市にあります西条市総合体育館で開催されました。白熱した試合が繰り広げられました。

香川県立農業高等学校の代表として私はバドミントン種目に出場させていただきました。バドミントン種目では昨年、私もメンバーの一員として出場しました。バドミントンBチームが準優勝という結果を残すことができました。このことから今年は優勝を目指して大会に挑みましたが惜しくも初戦敗退と悔しい結果となつてしまいました。しかし仲間と共に協力をしな

がら試合に挑むことができてとても楽しかったです。バドミントンでは悔しい思いをしましたが野球では昨年の成績を大きく塗り替える準優勝、卓球では三位という成績を残すことができました。バドミントン、バレー、卓球、野球全ての部活で仲間と共にチーム一丸となり大会に臨むことができスポーツを通してかけがえのない仲間との思い出を作ることができました。



した。目標としていた成績に届いた部もあれば悔しい結果となつてしまった部もありましたが何より勝ち負けの結果よりも四学連の同じ農業を志す仲間と出会え交流ができたことが何よりも宝になったのではないかと私は感じました。

近年、インターネットやSNS等の普及により、遠くの相手と簡単に早く連絡を取ることができるようになりました。そのような時代の中で今回の四学連のスポーツ大会のように実際に顔を合わせて時としてはライバルとして、時には友として交流をできたことはより深い友情を育むことが出来たことでしょう。卒業後、就職する人もいれば就職をする人や更に深く学ぶために進学をする人など自分の夢や希望を追いかけて様々な進路に進んでいくことと思います。

しかし、同じ農業を志していればいつかどこか会うこともあるかもしれません。もし、あつた時には今回の四学連スポーツ大会のことを思い出して一緒に話しながらできれば嬉しいです。本当に楽しいスポーツ大会でした。

さて、来年は高知県で開催を予定しております。一年後に再びお目にかかれることを楽しみにしております。

末筆ながら四県の農業高等学校の皆様のおますのご活躍を期待して感想とさせていただきます。

スポーツ大会を終えて

徳島県立農林水産総合技術
支援センター農業高等学校

6次産業ビジネスコース 二年

水 野 萌



スポーツ大会を終えての一番の感想は「最高に楽しかった」です。小学生の頃

にソフトボールをしていたこともあり、一年生の時から体育は野球を選択していました。体育が始まったばかりの頃は、談笑できる友達がいなかったのが非常に心細かったし、ソフトボールとは違ってボールが小さかったり、塁間が広いので距離感が分からなかったりと野球は難しく、容易にプレーしている皆に付いていくのに必死だったのを今でも覚えています。しかし、回を重ねるごとに話せる友達が増え、野球にも少しずつ慣れていきました。その過程で練習時に印象に残っていることが三つあります。

一つ目は、打撃練習の時の外野に打った時の爽快感です。軟式野球はソフトボールとは違いバットに当たれば飛ぶと言われています。それでも、練習で外野に打った時は楽しかったし、先生にも褒



めていただけて嬉しかったです。二つ目も、打撃練習の時のことです。私の同級生のピッチャーは全てがすごい人で、球速もコントロールも変化球も、おまけに野手としても上手です。野球をしたことがないのに好きと言う想いだけで練習を重ねて全てが完璧なのです。この同級生が投げた変化球を初めて見た時、私は驚きました。デッドボールと思って背を向けたのに、私に当たることなくキャッチャーミットにおさまっていきましました。こんなすごい球を投げるピッチャーがいることに驚くとともに、同じチームで良かったと思いました。

三つ目は、守備の練習をしている時です。ノックをする時、私ともう一人の男の子でいつもサードの練習をしていました。打席から距離が近いということもあって、サードには強い打球が飛んでくるので、最初は怯えていましたが、皆で励まし合って少しずつ上達していきましました。

そして、スポーツ大会の日が近づくと頃には皆から、「試合に出て欲しい」と言ってもらえるようになりましました。でも、私は走攻守全てにおいて下手で自信がなかったし、失敗したら皆に迷惑がかかるという怖さがあったので、一年生の時のようにベンチで応援しようか迷っていましました。



スポーツ大会

しかし、野球に対する皆の思いや姿勢を見て勇気が湧いてきて、試合に出ることを決意しました。本番では、とても緊張してエラーもしてしまったけど、皆が励ましてくれたし、他の人がエラーをしたら、自分も励ましました。とても仲間を思い、思われるチームメイトで良かったと感じましました。

試合には負けてしまっただけで、点が入ると皆で喜びあったりして想像以上に楽しく、夢中になることができて本当に良い思い出になったスポーツ大会でした。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

農学連スポーツ大会に

参加して

高知県立農業大学校
園芸学科二年 野菜専攻

永野 智 紀



私は農業大学校に入り、学生自治会の会長に選ばれ、四国農学連スポーツ大会に参加しました。一年時に参加した際には二年生が準備などを行ってくれていたため参加をするだけでしたが、自治会長として進行や準備などを行わないといけないかったため緊張を抱えながら始まったスポーツ大会でした。

体育の授業として大会の練習をはじめ一年生と二年生で五月から九月まで練習を行いました。練習では顧問の先生をお呼びし、一から教えていただき上達することができました。十月九日の本番では他県の会長が開会の言葉を話している時、私はそういった挨拶をあまりしたことがなかったため自分ではないのに緊張してしまいましました。

今回行われた競技は、バレーボール、野球、バドミントン、卓球があり、私が出場したバレーボールではA B二チーム各七人に

分かれて試合を行いました。今まで練習した成果を見せると同時に楽しもうと思いがけながら試合が始まりましたが、対戦相手が強く手も足も出ませんでした。同時に試合を行っていた高知Aチームは相手チームに勝利し勝ち進んでいましました。決勝戦では練習では見たことのない連係や動きができていたため観戦している学生や担当教官も驚いていましました。そして激闘の末勝利することができ、今までの練習の成果が発揮できたなど感じました。その他の競技は、バドミントン、卓球でも優勝をつかみ取ることができました。隙間時間で観戦に行くことが多く、すべてを見ることができたわけではないですが、見に行くたびに楽しそうに試合をしていて見ているこちらまで楽しくなりました。

学生生活を送っていく中で他県の学生と関わる機会はほとんどなくこういった行事で交流ができるのは私たちにとても良いことだと思います。スポーツを通してコミュニケーションをとることも今回のスポーツ大会を開催した意味の一つだと考えました。実際にバドミントンなどで対戦相手だった他県の生徒とコミュニケーションをとっている学生も多く、一人が話し始めると周りの学生も話しかけ始めるため多くの人と交流ができ交流の輪が広がったと感じま



体育での練習

た。また一年生と会話する機会も増え学校生活をしていく中で実習以外では関わりの少ない一年生とも関わる事ができました。

今年のスポーツ大会は愛媛県が開催地でしたが、来年は高知県での開催となります。一年生には今回の大会で学んだことを生かして、来年入学してくる新一年生の手本となる行動をとり、農業大学校に入ってからよかった、楽しかったと思えるものにしてほしいです。

農業に興味を持って！

将来へ!!

香川県立農業大学校
野菜園芸コース

高橋 倫太郎



私が農業に興味を持った理由は二つあります。

一つ目の理由は、家の畑で祖父の仕事をしていたからです。

私の家は農業をしており祖父が様々な野菜を作るところを小さい頃から見て育ち、手伝いができるようにになると栽培することや収穫・出荷する喜び、達成感を感じるようになりました。

レタスの出荷作業では、収穫物の葉を除くなど調整作業をしたのち検品します。この際、祖父から「少し葉が破れているくらいなら出荷できるが、大きな傷だと出荷できない、廃棄対象にしないてはならない」と、出荷物の判断について教えられました。検品後はラッピングを行い、サイズごとに分けて箱に詰めます。箱詰めしたレタスが積み込まれた軽トラックを見ると達成感があります。

二つ目の理由は、高校生になってから毎年している梨の収穫や丁



A出荷場、直売所でのアルバイトです。アルバイトでは、初めに、梨の傷の見極め方や箱詰めの仕方を教えてもらいますが、厳しく言われることもありましたが、梨は少しでも雑に扱っていると、すぐには分からない凹みや傷などになるため、厳しく言うのも梨に対して本気だからと納得しました。現在では、選別や箱詰めの際、優しく丁寧にすることを最も意識しています。また、一緒に働く年配の方々も経験豊富な方々からアドバイスを受けながらスキルを高めたいと考えています。

私の家の農業やアルバイトなどを通じて、生産から集荷・販売ま

での過程を経験し、農業の大変さを知りました。また、農家の努力があるからこそ、私たちの食生活が成り立つことを実感しました。そして、少しでも香川の農業に貢献したいと思い、香川県立農業大学校に進学しました。

現在、野菜園芸コースで多種多様な野菜の育て方を座学と実習で学んでいます。また、草刈り機やトラクター、フォークリフト、バックホーなどの様々な機械の使い方も教わっています。

将来は、家の農業を継ぎ、祖父が作っていた野菜だけでなく、新しい野菜にも挑戦し、私の作った野菜をたくさんの人に食べてもらい、笑顔にしたいです。

さらに、現代の農業では新しい技術を取り入れて効率的な栽培方法を模索し、持続可能な農業を目指しています。野菜栽培の将来性は非常に高く、特に有機農業やスマート農業の分野での発展が期待されています。

私の家の農業を通じて香川の農業に貢献できるよう農業大学校で様々な知識と技術を学びながらこれからの農業の未来に向けて努力していきたいと考えています。



私の目指すもの

香川県立農業高等学校
果樹園芸コース

松 原 未咲希



私の夢は、自分の農園で育てた農作物をたくさんの人に食べてもらうことです。きっかけは、小学校の給食の時の放送で「今日の給食の一つには、地域の農家の方が真心を込めて、丁寧に育ててくださった農作物が使われています。感謝して、いただきます」と流れたことでした。登下校中に目にする農家の方が手間暇かけて、愛情を込めて育てている風景が思い浮かび、その日は給食がより一層おいしく感じました。その時、私はなんとなく「作物を作りたい」という思いになりました。

私の家は非農家なので、進学した農業高校で一から学ぶ農業の世界はとて大きく、壮大なものでした。作物を一から育て、栽培から収穫、販売などについての学び、実際の販売では、たくさんのお客さんに来ていただきました。販売会では、自分が世話をした作物を手にとっていただける喜び、そして、お客さんからかけていただい

た言葉を鮮明に覚えています。「美味しかったからまた買いに来たよ」や「ありがとう」です。何気ない言葉のように思いますが、せんが、この何気ない言葉の一つ一つに意味があります。そのような言葉をかけていただくことで食べていただけることへの感謝の気持ちが、農業の道へ進みたいという大きな原動力になりました。



家実習では、いろいろな機械を使い、いかに効率よく、そして作物の状態を良く作業を進められるかなど、農大の実習ではできないことも体験しています。

私はこれらの経験を活かして、私の夢である農作物を子供たちに地域の小・中学校に安心して食べべてもらえる農作物を提供し、地域で結びついた活気のある農業の実現を叶えたいと思います。

そのためには、農業生産だけでなく、Instagram、X、YouTube、TikTokなどさまざまなツールを活用して、楽しんでもらえる体験型イベントや料理教室の開催。また、子供たちでも楽しく収穫できるプランター作物の販売。そして農作物の生育や栽培管理の大切さなど、地域の農家が協力してライブ配信などを通じて交流を行い、気軽に農場へ来てもらえる、楽しんでもらえるようにすることも、私たち次世代ならではのアピールポイントだと思います。

私は、そんな自分の夢に一步一步前進して、多くの人に喜んでもらえるような美味しい農作物を育てて食べてもらい、その先の元気な農業があることを思いつつ、日々頑張っています。

調理の道から農業へ

私の目指すもの

徳島県立農林水産総合技術
支援センター農業高等学校
6次産業ビジネスコース 一年

清 水 太 智



私は、料理人になることを夢見て、調理を学ぶことができる高校に進学し、専門的な技術を学んできました。しかし、その過程で農業の大切さを改めて実感し、徳島農大への進学を決意しました。それは、幼少期の思い出と高校時代の経験が大きく関係しています。

私の両親は、米やすだち、ゆずなどを育てていました。幼少期の私は、春には田植え、秋には収穫に駆り出され、自然や農業に触れていました。しかし、現在は一年に一度のゆずの収穫を手伝う程度になり、徐々に農業から離れるようになっていました。

一方で、私は高校での経験から、再び農業に対して関心を持つようになりました。高校では、多くの食材を扱う機会があり、食材の質が非常に重要であることを痛感しました。特に新鮮な農産物や食肉、魚介類などの食材にとっても魅力

感じました。

また、「食材がどのように生産されているのか」についても深く考えるようになりました。たとえば、地元でとれた野菜や果物が新鮮でおいしい理由、その背景には農家の方々の努力や土地の気候・風土が大きく影響していることを知りました。さらに、農薬や肥料の種類、栽培方法が味や栄養価にどのように影響を与えるのかという点にも興味を持ちました。

これらの体験から、農産物の生産から調理までを一貫して理解することができれば、食の価値をより深く伝えることができると考えました。そして、私は食の価値を伝えることを通じて、農業の発展につながることを確信しています。

私が、6次産業に興味を持ったのは、付加価値を高め、本来の価値を最大限に活用できる点にあります。農業を「生産」だけで終わらせるのではなく、「加工」によってその先の可能性を追求できることに私は魅力を感じています。

現在、私はサツマイモを活用した6次産業化をプロジェクト課題にしています。特にサツマイモは、食物繊維やビタミンCなどが豊富で、加工品に使いやすいので、レトルトスープやアイスなどの商品を開発したいと考えています。

これらの商品なら忙しい時や疲れている時でも簡単に食べること

ができて、手軽に楽しめるため、消費拡大にもつながると考えています。さらに、サツマイモは比較的少ない資源で育てられる作物なので、栽培を拡大し、加工・販売することは、食料自給率の向上や持続可能な農業の実現にも寄与すると思います。

本格的にプロジェクトを開始すると、「美味しさ」を最優先した調理とは異なり、素材のよさを最大限引き出し、保存性を高め、且つ「利益」を生み出すことが大きな加工では、製造コストや加工にかかる時間、価格設定など、課題が多く、商品開発の苦勞を実感しています。

現代の人々は忙しく、スーパーでは調理に時間をかけずに食べられるものが多く並んでいます。また、長寿や美容に関心を持っている人も多く、ますます健康的で手軽な食品を求めようになりま



校外研修

農業の師匠「一代ばあ」と

土壌改良に挑戦！

徳島県立農林水産総合技術
支援センター農業大学校
農業生産技術コース 一年

徳 元 悠 惺



私の農業の師匠「一代(か)ずよ」ばあは毎日農作業に駆け回り、夕ご飯を食べると電池が切れたように座って箸を持ったままスリープモードへ突入します。その時は決まって右手に箸・左手に携帯で農業に関するユーチューブ。家族は半分感心・半分呆れています。

ある日の夕ご飯終わり、大音量のユーチューブが流れてきました。「健全な畑づくりと残渣処理。土壌改良に向けて」私は一気に興味をわき、試してみたいと思いました。「ばあちゃん！これ見て！」我に返った師匠は驚きの一言。「そうそう！これこれ！残渣処理！」スリープモードへ突入した師匠から残渣処理のワードが出てくるとは。私が感心していると続けて、「けど、ばあちゃん、内容がサツパリ分かん。寝てしもったわよ。えへへ。」私は笑いながら「一緒に勉強しよう。美味しい野菜を

作るため、食べてくれる皆に喜んでもらうために。」思い立ったら即行動。「さあ畑に行くじよ。」こうして二人の土壌改良・残渣処理が幕を開けたのが今から二年前の冬でした。

それでは、ここから二人が取り組んだ残渣処理を紹介します。土地を耕運し、三徳で穴を掘り、菜の花の残渣を細断することなく、根ごと放り込みました。そして土づくり資材と鶏糞を撒き、米ぬかを撒き、足で踏み固め、最後に土をかけました。一か月ほど放っておいて恐る恐るスコップで掘ってみると、思わず私は興奮して叫びました。「すごい、あの太い菜の花がなくなってる！良い土に変わってる！」すると、師匠は、「ほな悠惺。早速白菜を定植しよう」喜びも束の間。師匠は、白菜を定植しました。そして収穫の日、見事に大きな肉厚の最高の白菜ができました。食べると甘みが強く、感動しました。初めて成功体験をした二人は、少し自信がついていました。

そして農大に入学した今年四月、二回目の残渣処理を行いました。一回目と同様に準備し、しばらくの期間待っていると、風に乘って悪臭が漂ってきたのです。匂いの先は、残渣処理をしたところでした。恐る恐るスコップを入れてみると、「うわ！大根が出て

きた！」と私は思わず叫びました。師匠は「あっそうじゃった！大根を土に埋めるんだった。あら失敗。」と笑いました。私は「その知識、大根放り込む時に思い出して欲しかったよ。」と心の中で叫びました。早速、師匠は「トラクターで耕運して大根を細かくしよう。」と提言しました。耕運後、無事に残渣処理を完了して土壌改良は成功。こんな経験を繰り返しながら、二人は成長してきました。農大へ入学して約八ヶ月がたち、極力農薬や肥料を使わないことが地球環境に優しいと学び、実践しています。今後の目標として、土壌改良だけではなく、農薬を極力使用せずに栽培できる土壌作りをしていきたいと考えています。卒業後は、農業関連企業へ就職するとともに、OBとして学生の育成にも携わりたいと考えています。



発芽試験

3Kからのイノベーション

高知県立農業大学校
園芸学科 一年 野菜専攻

上 田 里都稀



(一)はじめに
農業は、「3K」という言葉で代表されるように、きつい、汚い、

危険なイメージが根強く残っています。しかし、私自身の経験から、農業は必ずしもネガティブな側面ばかりではないと確信しています。ここからは、普段から考えていたことを実家のミヨウガ農家という視点から、農業の多様な可能性と新たな価値創造について述べます。

(二)これからの農業について

私の父は代々続いてきたミヨウガの栽培を断ち切り、ミヨウガの栽培を始めました。ミヨウガを施設で栽培するにあたっての初期投資は非常に膨大な額であり、その初期投資をしてまでも事業を拡大する父の背中を追いつつも、私も農業に携わりたいと思うようになりました。

日本の農業は高齢化が進み、後継者不足が深刻な問題となつていきます。また天候に左右されやすく、収量や品質が安定しないという課題も抱えています。このような状況下で、農業の持続的な発展のためには、革新的な取り組みや斬新なアイデアが必要になると思います。

私は、個人事業主という生き方の提案をしたいです。農業を営むということとは、自分の会社を持つことと同義であり、経営方針や経営形態を自由に操り、運営していくことが可能です。このように農業とは、自由度が高く、縛られない生活を行うことができる職業ですが、メリットだけではないのも事実だと考えています。実際、農業への新規参入者は、ほんのわずかで、今現在農業を行っている者は後継者ばかりです。この実態として、新規参入者がいないというよりも、新規参入できないということが問題になっています。

そこで私は新たな視点から、農業関係の事業を提案し、実家の経営に取り入れたいと考えています。それは、新規参入できない就農希望者へ土地や道具、さらにノウハウを一つの商品として、ファインانسリースという形で提供するものです。そうすることで、実家の規模拡大と地域農業発展の一歩になるのではないかと考えているからです。

現在父は、スマート農業に積極的に取り組んでおり、これらの取り組みの結果、高品質なミヨウガ

を安定的に生産し、所得の向上を実現しています。

(三)私の将来について

地元である高知県で農業を継ぐことを決意した私は、伝統的な農業に革新的な技術を導入することで、より豊かな地域社会の実現に貢献したいと思っています。そして農業を誇れる仕事にするため、作業の方法や作物との関わり方をデータに基づいた科学的なアプローチへと、更にシフトさせていきたいと考えています。

私は、今よりさらに農業を発展させ、高知県が園芸先進県と呼ばれるように努力していきたいです。



トマトの生育調査

私と農業との関わり

高知県立農業大学校
園芸学科 一年 花き専攻

川村 有佳梨



(一) 農業との関わり

「植物を自分の手で育てたい」そんな思いで農大に

来た。今では、そんな軽い気持ちで来たことを後悔している。自分のプロジェクトを開始し、本格的に花を育て始めた。植物を育てることは大変なこと、手がかかることが多くある。実習を通して身を持って知った。少し目を離すと成長を見逃したり、害虫被害にあったりする。しかし、それだけではない。消費者には見えない、生産者の努力と知識があると私は思う。大変だなんて簡単な言葉では表せないほど、奥深いのだ。これはきつと、植物を育てたことがある人にしか分からないものであり、それを知ることが出来て良かった。

(二) 農業を身近に

正直、生産者という立場で農業に関わる自信はないが、農業を始める「きつかけづくり」をしたいと思っている。私が「植物を自分の手で育てたい」と思ったのは、

小さい頃から植物が好きだったからだ。特に花には目がなかった。それは、私の周りには常に植物があり、花があつたからだ。今の子供達は自然と触れ合う機会が減っているのではないと思う。そんな子供達に、植物の良さや不思議を知ってほしい、そして興味を持ってほしい。ただし、興味があるのと、実際に行動するのでは、訳が違う。興味があるで終わらせてはいけないのだ。

(三) 農業を始めるきつかけを考える

「きつかけづくり」の具体的な案と理想について述べたい。

一つ目は、地域の景観を花で彩ること。そしてそれを地域の子供達と一緒に行いたい。自分達の手で花を植えることで、花と触れ合う良い機会になると思う。また、大人の方々にも花と触れ合ってほしいと思う。そして、少しでも穏やかな生活を送ってほしい。私自身、悩みがあるときや落ち込んだときに、花や緑に何度も励まされてきた。

二つ目は、農業一本で生計を立てる必要はないという考えを広げることだ。若者が就農しづらい理由には、収入が低く安定しないといったイメージや大変そうというような理由が大きい。これを払拭するためにも、副業、兼業として農業に関わることもできるという考え方が大事だ。

以上が私の考えであり、理想である。結局日本にとって、農業はなくてはならない産業であり、誰かが営んでいかなければいけない。だからせめて、これから農業を営む方々が少しでも農業を営みやすい環境を作っていけるように、私自身技術と知識を身につけていく。



ユリ収穫前の栽培管理



先進農家留学研修で

学んだこと

高知県立農業大学校
園芸学科 二年 野菜専攻

田岡 沙久



私が一ヶ月半研修させていただいたのは、本山町でパプリカを栽培しているF

株式会社さんです。

栽培面積は一ha、軒高は五・九mで、二千五百六十株ものパプリカが植わっています。給液の際に出た廃液は、タンクに貯めて殺菌・消毒し、新しい液肥に混ぜて給液するということに、施設内で循環させていました。環境制御システムは統合制御装置を使っていて、複合的な管理が可能です。正社員の方は七名で、事務、販売、労務、栽培等の管理をされており、パートの方は十四名で、主に収穫、選果、芽かき、誘引、掃除をしています。出荷先は、岡山県や兵庫県のイオン系列のスーパー、嶺北地域の通販サイト、その他にも四社ほどと取引をしています。

研修に入って最初の作業は、誘引紐の括り付けでした。きつく紐を括ると苗が引っ張られて成長しなくなるがあるので、適度な

強さで括り付けます。誘引紐が細く、繰り返し返しているうちに指の感覚が無くなつていきました。紐の括り付けが終わると、次は誘引作業をしました。パブリカの葉や花、実を挟まないように気を付ける必要があります。作業に慣れていないうちは感覚が分らず、葉や側枝が紐に引っかかり時間がかりました。隣のレーンのパートの方にはどんどん追い抜かれていきます。パートの方の作業を見てみると、少し葉を挟んでいたりと、伸びている主枝は節を飛ばし、成長点付近のみを紐に巻き付けるなど、説明で聞いた作業より大雑把な作業精度であるように思えました。作業時間の短縮の方が大切なことがよくわかりました。最後の作業は収穫です。着色度合いを見ながらの収穫は難しく、ナイフで実を傷付けることや、まだあまり着色していないのに収穫してしまうこともありました。同色の品種が混ざらないようになど、気を付けて収穫をしました。

この研修で学んだのは、作業はスピード重視で行うということです。ゆっくり作業をすれば丁寧にできますが、少し雑でもスピード重視でやった方が多くの作業を行うことができるので、結果的に良い管理になります。また、周回する回数が多くなるので、病害虫の発生にも早く気付けます。今まで



研修先にて



はついつい丁寧にやり過ぎていた事もあったので、これからは、作業はスピード重視という事をしっかり頭に入れておこうと思えました。また、F株式会社さんはハウスの隣に火力発電所があり、余剰熱やCO₂をハウス内に送ることのできる栽培に使う重油を七割近く削減できていて、上手く利用されているなど強く印象に残りました。

この研修で多くの事を学び、身につけられたと思います。栽培管理もそうですが経営、人間関係など、実際の現場で農業大学校では学べないことを学ぶことができました。

就農と柑橘のブランド化について

愛媛県立農業大学校
総合農学科 一年 果樹コース

水 井 隼 輝



私の地元は
広島県の大崎
上島でレモン、ミカン、
ブルーベリーの
産地です

が、ミカンの単価で比べると愛媛県産に比べて安く取引されておると実感します。

私は、ブランド化を図るうえで農家にとって一番重要なことは、生産することではなく生産した農作物をどこにどうやって販売するかがカギになると考えています。例えば、J-Aに販売すると、作ったものをそのまま引き渡すことができ、生産に集中することができ、単価が決まっているため、収入額はそれほど高くはなりません。

一方で個人売買、ネット販売すると、販売ルートの確保ができるとともに自分で価格設定ができることから、収入がある程度見込まれ高収入も期待できるため、農家からするとうれしい話になると考えられます。しかし、選果から

箱詰めまで全てを自分で行わなければならないことや、価格が高すぎると顧客はつかず売れ残りが多くなること。消費者からのクレーム対応等もすべて自分でしなければならなりません。

また、ブランド化は、何よりも消費者との信頼関係の上に成り立っているため、品質保証や嘘の表記をしないということは絶対となります。

以上のことを踏まえ、将来、私はブランド化に向けて、レモン、石地みかん、ハウスせとかの栽培に力をいれていこうと考えています。

その理由として、広島県はレモンの生産量日本で五割を占めており、大崎上島町は民間企業とレモンの振興などに関する協定を結び、レモン栽培にかなり力を入れているため、瀬戸内レモンを売りにし地域おこしが期待できること。石地みかんは広島県で発見された品種で美味しいものが作れる環境であること。ハウスせとかに関しては、私がハウスで栽培したせとかを食べた際、単純にこの味を全国の人に知って欲しいと感じたことから、三種類の柑橘を基幹品目とする思いが強まりました。

農業大学校では、実習の時間が多くみかんのせん定や摘果、防除、収穫等を行い、講義も、みかん品種の生い立ちや、農業簿記、経営

について学ぶことができています。以前、成功している農家の話を聞いた際、「成功している農家の真似をすることで、ある程度はうまくいくが、その先に行くためには、他の農家がしていない新しい発想、工夫を実行しなければならぬ」と話されていました。

私は学生のうちに、より多くの農家の園地を見て、話を聞いて将来の自分が行う農業のイメージを作っていきたいです。その理想の農業が行えるよう、実習だけではなく、講義や経営の知識を身に付けてるとともに、学生同士の人間関係を卒業後も大切にしていきたいと思っています。



オープンスクールにて

私のふるさと

愛媛県立農業大学校
総合農学科 一年

山田 愛加



私は愛媛県で最も南にある愛南町という、小さな町で育ちました。愛南町は

温暖なことから愛南ゴールドの商品名で販売されている河内晩柑をはじめとする柑橘類や、キウイフルーツ、ブロッコリーなどの栽培が盛んな町です。そんな町の山村集落で、非農家の娘として育ちました。高校進学までは「なんとく愛南町で生活して、なんとなく大人になって、なんとなくおばあちゃんになっていく」イメージだったのですが、進路先を考えるときに、昔祖父が楽しそうに野菜を作り、私も楽しく手伝いをしたことを思い出し進学先として農業科を選びました。

農業科での授業は非農家出身の私にとって新鮮で楽しく、特に実習は楽しさと驚きの連続でした。そして、何よりも熱心に取り組んだのが「地元探求」の時間でした。この教科は地元をテーマにしたプロジェクト活動だったのですが、私は一年時も二年時も地元果樹栽培

について調査することとし、この活動を通じて生産者や農業をサポートする人たちを知り、地元の特産品である「愛南ゴールド」を愛するようになりました。

今の農業大学校に進学してみると高校時代にはなかったブドウ、モモ、カキといった落葉果樹についても学べて、楽しい日々を過ごしています。また、農業DXの授業で最新の機械や装置を見る時は、いつもワクワクしています。ただ、入学して半年が過ぎるこのごろは、卒業後に就農を目指すというクラスメイトと自分を比較することが多くなり、「テキパキと作業ができないし、臆病者の私には自営就農も、法人就農も向かないんだろうなあ」とも考えるようになってきました。

そんな私ですが、私には夢があります。それは、私が愛してやまない愛南町に戻り、愛南町を今までの以上に活気のある町にしたいと思っています。愛南町では柑橘の中でも愛南ゴールドの栽培が盛んであり、最近では県がヨーロッパでの販売に力を注ぎ始めました。しかし、高校時代のプロジェクト学習の時間に調査をして知ったことですが、河内晩柑と愛南ゴールドと御庄柑が同じ果物であり、愛南ゴールドの美味しさについて知っている人は、愛媛県民でも少ないのです。ですから、私も



即売会での接客のようす

愛南ゴールドを知る人を増やすPR活動をしたいのです。また、愛南ゴールドの生産者も高齢化により減少しつつあり、このままでは産地が消滅する可能性があるという事です。この問題については、新たな生産者を確保するしかないと思うので、地元で新規参入者の受け入れをお手伝いしていきたいと思っています。

農業大学校の授業で産地と呼ばれる地域は、生産と販売を生産者と関係機関が協力しあっていることを学びました。今の愛南町にこうした動きが無いとは思いませんが、これから更なる発展をするために、私はこうした活動に従事したいと思っています。

アグリビジネス科から 将来の夢へ

愛媛県立農業大学校
アグリビジネス科

渡 部 和



私の在籍するアグリビジネス科では総合農学科より踏み込んだ農業経営や実際の法人での研修を通して農業の即戦力を育成する学科です。私は総合農学科で二年間農業について実習や授業で学んできましたがもつと農業について学び将来は農業を営みたいと考えており、そのためこのアグリビジネス科に入りました。

もともと定員が少ない学科ですが今年は自分一人です。そのため授業も一对一の個別教室のような状態です。少し寂しい感じではありますが、授業では自分が聞きたいことをいつでも聞けるのでこれはこれでよかったのかな？と最近思っています。同級生はいませんが総合農学科に在籍する後輩と関わることも多く楽しい学校生活を送れています。

実習では東温市にある農業法人で主に米麦を中心に学習しています。コンバインやトラクターなど

の機械は大きいものが多く栽培面積が大きいと機械の導入は必然と大きなものになるし、雇用も必要となります。また管理が追い付かなくなると言う事もあり、大規模経営の難しさ、現実というものを改めて実感する機会となっていました。ほかにも周囲の他の農家とかかわりから学ぶことなどもあり農業やそれ以外のことを学ぶことも多くあります。

そんな私は農業大学校を卒業した後はJAでの新規就農者研修で二年間イチゴについて学びイチゴ農家になろうと考えています。もともとは先ほど述べたように米麦を大規模で行おうと考えていました。しかしアグリビジネス科での法人実習を通して大規模経営の難しさ、土地の確保・契約・返還など栽培作物以外における、苦勞もあり考え直した結果イチゴという結論になりました。もちろんイチゴは簡単な作物ではないことは知っています。しかし手をかけた分きちんと結果を出してくれる作物であり難しい分この作物を極めようと思えました。農大でも様々な先生方に将来主とする作物についての助言や分からないことについて尋ねることができずし、アグリビジネス科の授業は外部講師の先生方も多く外部の人の貴重な意見を聞けるためとてもありがたいです。

この学校で学んできたことは多くあります。座学では経営の行い方や病虫害・土壌について、実習では農業がどのようなものなのかということやそれを改め確かめることができました。人間は自然の前では無力な生き物です。どんなにハウスや薬が発達していても自然に敵うことはありません。実習で一番学んだことはそのことだと思っています。まだまだ、私は農業と言うものを学ばなくてはいいなと思っています。そして、将来農大に行つてよかったな、役に立ったなと思えるように将来の夢を叶えられるように努力していきたいです。



水田の用水整備のようす



四国地区農業大学校学生連盟 令和六年度 事業結果

四国地区農学連スポーツ大会

十月九日(水)

(愛媛県西条市 西条運動公園)

○ 軟式野球

優勝 愛媛農大

準優勝 香川農大

○ バレーボール

優勝 高知農大Aチーム

準優勝 愛媛農大Bチーム

○ バドミントン

優勝 高知農大Aチーム

準優勝 高知農大Bチーム

○ 卓球

優勝 高知農大Aチーム

準優勝 徳島農大Aチーム

全国農業大学校等交換大会

四国ブロック意見発表会

十二月十一日(水)

(愛媛県四国中央市 土居文化会館)

最優秀賞 香川農大 尾池 雄
優秀賞 香川農大 松原未咲希